

活動団体名	宗像国際環境会議実行委員会
所在地	福岡県宗像市田島755-4
団体の目的	
活動地域	宗像市
地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿	“海の鎮守の森”というコンセプトを掲げ、海の環境保全に取り組む。市内を流れる釣川の中流域に位置する牧場牛の糞尿を活用したバイオガス発電、下流域沿岸域でのエコツーリズム、漁師による海洋ゴミ回収などを通して、持続可能な地域循環共生圏の実現を目指す。
地域の現状・課題	世界遺産登録を実現し、宗像大社への訪問客は増えているが、大社の信仰を守ってきた漁礁者、農業者を取り巻く環境(温暖化、海洋ゴミ、消費者ニーズなど)は年々厳しい状況に陥っている。釣川の水質問題を契機に、約30年前から市内では環境活動に取り組む団体、市民も多く、環境についての意識は高い地域でもあるが、その取組みを持続可能とする経済的な仕組みの構築までは至っていない。
地域が持つ資源	県下有数の漁獲高を誇る漁業基地、世界遺産登録された宗像大社、九州でも有数の「道の駅むなかた」、長年宗像の環境に取り組んできた環境連絡協議会、宗像国際環境会議を支援する企業及びメディアネットワーク など
取組内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 鐘崎漁師、海女を核にした海の環境を学び、魚貝類の消費拡大につなげるエコツーリズムの実現 2. すずき牧場での牛(約1500頭)の糞尿を利用したバイオガス発電検討 3. 漁師による海ゴミ回収事業の検討
地域循環共生圏を 実践することで想定 される効果	<p>(環境) 世界遺産の宗像の海の環境保全が進む。(海ゴミの回収、漂着ゴミの回収、陸上からのゴミ削減 など)</p> <p>(経済) エコツーリズムなど観光事業の拡大、バイオガス発電事業の立ち上げ、漁師による海ゴミ回収事業の立ち上げ</p> <p>(社会) 市民の環境に対する意識向上により、釣川、海岸線などのゴミ回収イベントの参加数拡大、市民による日々の環境保全活動も促進。</p>